



防災・減災を考える

学校長 高橋 実

今年の夏は、ひと際暑かったように感じます。水泳学習では、水温や気温が低くて中止にすることはありますが、それらが高すぎて中止にする学年があったことは、経験上初めてかもしれません。幸い熱中症等による大きな事故は起きず、9月の着衣水泳をもって無事に今年の水泳学習を終えることができましたが、来年に向けての課題を検討しなければならないと考えています。

日本各地では熱中症以外にも、台風の影響による水害、地震、そして交通事故など様々な災害がありました。学校としても、災害に対する防災・減災の意識を高くもち、色々なことに取り組んでいかなければと思います。学校では、地震や火災などの災害訓練を年間にわたって行っています。特に今年度は、火災訓練の避難経路をより実効性のあるものに変更しました。PTA会長であり、現職の消防士である榎本様にアドバイスをいただきながら何回も検討を重ね、防火シャッターが下りていることを想定したより安全な避難経路を決めました。実際に避難訓練で実施してみましたが、安全に避難することができました。子どもたちは、火災での被害は煙によるものが多いことを知り、身をかがめてハンカチで口や鼻を押さえて避難しました。

交通事故災害の対策協議の場として、毎年警察や土木事務所、区役所を招いてスクールゾーン協議会を行います。自治会長様をはじめとする地域の方々、PTA役員の皆様にも参加していただき、子どもたちが交通事故等の災害に遭わないよう、事前にPTA地区委員の方々に作成していただいた資料をもとに一か所ごとに検討を重ねました。歩道に赤いポールが設置されるなど、すでに要望箇所の改善が行われたところもあり、今後も少しずつ改善される見通しです。

地震により倒壊したブロック塀により小学生が亡くなるという痛ましい事故がありました。それを受けて、改めて校区内の塀の点検をPTA地区委員の方々にしていただきました。作成していただいた資料を教育委員会に提出したところ、そのうちの1か所について早速修繕をする旨連絡がありました。

今週の25日は、不審者対策として、警察、区役所、キッズ、学童、PTA地区委員の方々と共に、いくつかの心配される箇所をまわりました。子どもたちは毎日この遠い道のを学校に通ってくるのだと改めて実感しました。警察の方のお話では、寂しい場所だから危ないのではなく、人が大勢いるところでも危ないことがあるため注意が必要で、特に不審者が道に立っていても不自然でないようなところや、入りやすく見えにくい路地などは気を付けるようにとのことでした。そして何よりも大切なのは本人の意識を育てることで、怪しい人には近づかないこと、誘われても決して車に乗らないことなどを、ご家庭でもしっかりと子どもに教えてほしいとのことでした。自然災害や交通災害と同じように「自分の命は自分で守る」という意識や知恵を育てることが大切だと改めて思いました。

関係の皆様、とりわけPTA地区委員の皆様、どうもありがとうございました。